

# メーデー大会宣言(案)

我々は本日、働くものの祭典第75回愛媛中央メーデー大会を開催した。

1920年、我が国で初めてメーデーが開かれ、75回の今大会まで84年を経過した。しかし我々働く者を取り巻く状況は依然として厳しい。景気や雇用情勢は回復基調にあるといわれるが、労働者の日々の暮らしにその実感はない。不況倒産、首切りリストラによる雇用不安や330万人にのぼる失業者。多くの職場では不払い残業などの法律違反や長時間労働がまかり通り、家計の収入減による生活不安は増すばかりである。また、医療や年金の改悪による将来不安、地域や家庭の崩壊、犯罪の増加などによる社会不安の深刻化も重大である。さらに世界的規模で平和や人権が脅かされている。

今、必要なことは「安心と安全の社会づくり」である。労働組合にはその役割が求められている。労働運動の底力で、「笑顔で安心して暮らせる日本」を取り戻さなければならない。本年7月には参議院議員選挙がある。日本の将来を左右する重要な選挙である。だからこそ一票に託して働くものの代表を一人でも多く、国会に送り込まなければならない。一人ひとりの行動が社会を変える力になる。

メーデー75回の節目の年にあたり、もう一度メーデーの意義を振り返ろう。

メーデーのきっかけは、1886年5月1日、低賃金と悲惨な労働環境、1日10数時間に及ぶ長時間労働に抗議してアメリカの労働組合が8時間労働を要求して行ったゼネストであった。アメリカ労働総同盟(AFL)は官憲の弾圧に屈することなく、1890年5月1日を期して8時間労働を実現するための運動に全力をあげることを決定した。これが第1回メーデーである。

21世紀の今日においてもメーデーの意義と役割は、ますます重要となっている。連合結成のスローガンである「ゆとり、豊かさ、社会的公正の実現」はまさに労働者の権利と暮らしを守る政策要求であり、労働組合は先頭に立って平和や人権をしっかりと守っていかなければならない。

また、メーデーは国際連帯の日である。世界150カ国・1億5800万人の労働組合員を擁するICFTU(国際自由労連)は、グローバル化がもたらす貧困や飢餓、差別や抑圧、紛争やテロをなくすために、また政府や経営者に労働者の権利を尊重させるために、世界中の労働者が立ち上がるよう呼びかけている。

我々も、この呼びかけに応えよう！

働くものの連帯、NPOやNGOとの連携で「平和・人権・環境・労働・共生」に取り組み、労働を中心とする福祉型社会と自由で平和な世界をつくろう！

我々は、すべての労働者がともに行動し立ち上がることを訴える。

我々は、働く仲間が日本を元気にすることをここに宣言する。

第75回メーデー万歳！

2004年 4月29日

第75回愛媛中央メーデー大会